

ショートコメント vol.80 (2017年8月29日)

テーマ：神戸市人口に転出超過が続く背景

～大阪市、京都市を含む関西3都で唯一の動き～

●大阪市、京都市と異なる人口トレンド

かつて神戸市の人口は、関西の主要3都市で最も好調な推移をみせていたが、近年は転出超過となっている(図表1)。

大阪市や京都市は2010年以降、安定的に転入超過となっていることから、神戸市の動きは非常に目を引く。

近年の全国的な人口トレンドについては、首都圏の人口増加に加え、各都市圏における中心エリアの人口増という動きもみられるが、神戸市はそのトレンドからも少し外れた形となっている。

●東京圏に対する転出超過

神戸市の転出超過の状況には、ある特徴がみられる。

図表2は直近3年間の平均値をみたものであるが、神戸市については、東京圏に対する転出超過が目立つ。神戸市と京都市は人口規模が150万人前後と似ているが、両市を比べるとその違いがよく分かる。

さらに、大阪市を含む3つの都市でも、人口比でみた東京圏への転出超過の規模は、神戸市が最も大きい(図表3)。

●企業による人材配置の見直し

この背景としては、企業による人材配置の見直しの影響が大きいとみられる。

東京五輪の影響を含め、関東方面に人材をシフトする動きが強まる中、大阪もその影響を受けているが、神戸はその動きが強めに出ているということであろう。

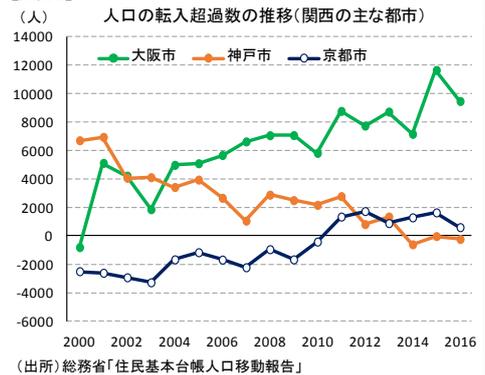
その対策としては、やはり神戸の強みを打ち出し、今後に向けた成長期待を高めることが求められる。

神戸市では、特に医療、健康関連などに成長の柱としての期待がかかるが、短期的な爆発力を備えている分野として、インバウンド関連も挙げられる。

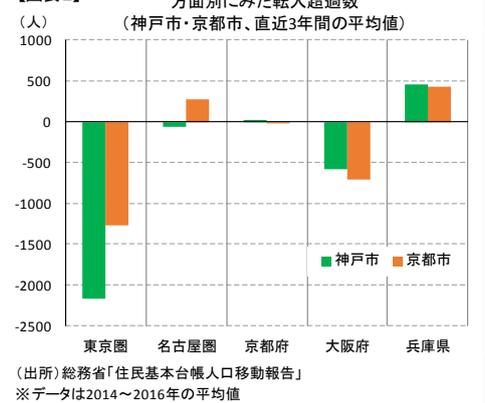
神戸は今のところ、大阪や京都の陰に隠れる形となっているが、訪日外国人の行動範囲が広がるにつれ、大きなチャンスが訪れることは間違いない。クルーズの寄港が増えていることはもちろん、将来的には神戸空港の活用も視野に入ってくる。

もともと神戸市は居住エリアとしての人気は高い。産業面での新たな成長に向けた動きが、結果的に人口の面にも良い影響をもたらすことが期待される。

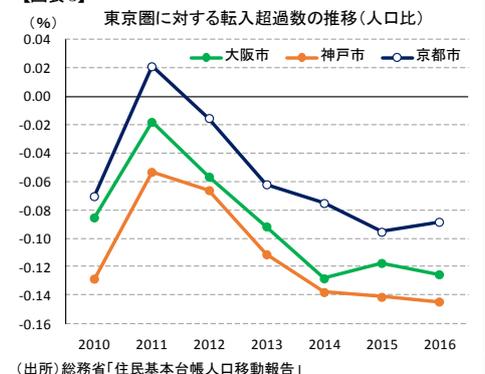
【図表1】



【図表2】



【図表3】



本件照会先: 大阪本社 荒木秀之
TEL:06(4705)3635 mail:hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。